

## つくばヒト組織バイオバンクセンター公開文書

管理番号：R03-056	※バイオバンク記入欄
研究課題名： ガラス化を利用した質の高い凍結組織包埋標本作製法の検証	
<b>&lt;1. 研究の目的&gt;</b> <p>手術中に迅速診断を行うために摘出した組織の一部を急速に凍結した「凍結包埋標本」が作製されます。この標本は、診断が終わった後に研究で利用されることがあります。凍結包埋標本が研究で使用される時、冷凍庫から出し入れを繰り返すと組織像が変化してしまい、再現性を確認することができなくなってしまいます。そのため、繰り返し使用しても組織像が変化しにくい凍結包埋標本の保存法の開発が望まれています。</p> <p>生殖医療分野で卵子や受精卵を良い状態で保存するために「ガラス化」という方法があります。この研究では凍結包埋標本作製する時にガラス化の手法を取り入れることで、標本の保存状態が改善されるかを検証します。ガラス化法により従来の凍結包埋標本作製における欠点を克服できれば、信頼性の高い研究結果に繋がる高品質な研究用標本の試料の保存が実現できます。</p>	
<b>&lt;2. 研究対象者&gt;</b> 西暦 2021 年 6 月～ 2021 年 3 月に当院で腎癌の手術を受けた患者さん	
<b>&lt;3. 研究期間&gt;</b> 倫理委員会承認後～ 2022 年 3 月 31 日	
<b>&lt;4. 研究の方法&gt;</b> <p>この研究では、生殖医療分野などで利用されているガラス化の方法で研究用の凍結包埋標本を良い状態で保存することができるかを調べます。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 受精卵や霊長類の細胞用に市販されているガラス化液を使用して、凍結包埋標本作製</li><li>(2) ガラス化法で調整した凍結包埋標本を薄切してヘマトキシリン・エオジン(Hematoxylin Eosin:HE)染色を実施</li><li>(3) HE染色標本を観察してガラス化法を施した標本の組織像をコントロールと比較</li></ol>	
<b>&lt;5. 試料・情報の項目&gt;</b> <p>「診療で採取した組織、血液をつくばヒト組織バイオバンクセンターで保管することについてのお願い」により同意の得られた患者試料・情報</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>組織（対象臓器：腎臓                      対象疾患：腎癌       ） <input type="checkbox"/>血液試料（          ） <input type="checkbox"/>その他試料（          ） <input checked="" type="checkbox"/>臨床情報（ 年齢、性別、病理診断、感染症の有無    ）</p>	
<b>&lt;6. 試料・情報の第三者への提供について&gt;</b> 該当なし	
<b>&lt;7. 試料・情報の管理について責任を有する人&gt;</b> 筑波大学附属病院 つくばヒト組織バイオバンクセンター 竹内朋代	
<b>&lt;8. 研究機関名及び研究責任者名&gt;</b> 筑波大学附属病院 つくばヒト組織バイオバンクセンター 竹内朋代	

<9. 本研究への参加を希望されない場合>

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

<10. 問い合わせ連絡先>

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：つくばヒト組織バイオバンクセンター 担当 竹内朋代

電話・FAX：029-853-3715（土日祝日を除く9～17時）

メール：bank298@hosp.tsukuba.ac.jp